報告書抄録

ふりがな	せきのついせき
書名	関津遺跡
シリーズ名	国道422号道路改築事業に伴う発掘調査報告書
編著者名	吉田秀則　三宅　弘　大崎哲人　藤崎高志　柳本千鶴
編集機関	滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　　財団法人滋賀県文化財保護協会
所在地	滋賀県大津市京町四丁目１番１号　　滋賀県大津市瀬田南大萱町1732番２号
発行年月	平成20年(2008年)３月

所収遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査面積	調査期間	調査原因
		市町村	遺跡番号					
関津遺跡（せきのついせき）	滋賀県（しがけん） 大津市（おおつし） 関津一丁目（せきのついっちょうめ）	25201	316	34° 55′ 55″	135° 55′ 19″	6,715㎡	20041105 ～ 20060324	国道422号道路改築事業

所収遺跡名	種類	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
関津遺跡	集落跡 官衙跡	旧石器時代 縄文時代 奈良時代 平安時代から鎌倉時代	自然流路跡 溝 掘立柱建物 井戸・墓・溝	角錐状石器 石鏃・石錘・環状石斧・スクレイパー・縄文土器 須恵器・緑釉陶器 神功開寶 土師器・須恵器・瓦器・輸入陶磁器 石鍋・宋銭・犂・呪符木簡・絵画木板・田下駄・下駄	縄文時代後期以前の堆積層から単独で出土

要約

関津遺跡南半部、田上山系山裾の微高地上から瀬田川沿いに近い低湿地までを横断する形で計画された国道422号の路線域で実施した発掘調査成果である。微高地上では縄文時代後期から晩期、平安時代末から鎌倉時代にかけての遺物を伴う数条の旧河道や、鎌倉時代の掘立柱建物・井戸・墓などを検出した。鎌倉時代の建物群は調査区周辺に残存している南北地割に近似した方位を指向しており、田上平地の広域に認められる方格地割とは異なる在り方を示している。南北地割は今回の調査域の北側の範囲において検出した奈良時代後半の大型直線道路の両側に形成された地割であり、当該域では鎌倉時代に至ってもその規格性が継承されていたことがうかがえる。ただし、奈良時代の遺構や遺物は希薄であり、大型直線道路両側に展開した奈良時代の官衙的な建物群の広がりは当該域まで及んでいなかったものと見られる。また、微高地上を開析する旧流路からは比較的多くの縄文時代後期から晩期頃の石器が出土し、近接して集落域が存在していたことがうかがえる。さらに、その基盤である縄文時代以前の堆積層からの旧石器時代角錐状石器の単独出土は、県内でも稀少な例として注目される。また、旧河道や微高地周縁の低湿地出土の中世の犂や下駄・呪符木簡・絵画木版などの多彩な木器は中世の農業生産や日常生活、精神文化の実像を示す良好な資料である。